リハビリテーション科内での新人勉強会に参加して

今回の勉強会ではＰＴ,ＯＴ,ＳＴの３部門合同にて，画像所見，事前情報から考えうるリスクについてグループディスカッションを行いました。

同じリハビリテーション科内の職種でもそれぞれ得意とする分野が違い，様々な意見を聞く事が出来ました。これまで私は脳画像所見が提示されると，「高次脳機能障害がどういった動作に影響するのか」，「機能・活動面にどう影響が出るのか」を考える傾向にありましたが，他スタッフの方々との意見交換を行うと「実際の生活場面において遂行出来ているか」，「どういった工夫・環境設定が必要か」など生活全般を通したリスク管理を配慮した意見が聞かれました。事前に予測したことが現象として必ずしも起こらなくてもよい。あくまでも予測であって，その予測をもとにして行動した結果，何も起こらなくてもリスク管理としてあらゆる危険性を想像し何が起きても対処できる事が大事なのだと感じました。何か起こってからでは遅い。だからこそ，事前に知る事のできる，画像・情報をもとに起こり得る可能性を考えたうえで，直接患者様と対峙し，何ができて何ができないのか？それはどうしてなのか？何かで代償できないのか？それらを考えながら１つ１つ当たり前の事を丁寧に評価していく事の大切さについて改めて重要性を感じました。今回の研修で改めて考えさせられた視点を今後も持ちながら治療に活かしたいと思います。

リハビリテーション科　新人理学療法士

今回の新人勉強会のテーマは「患者様の情報から何を考えるか」でした。このテーマで職種別に３人１組となりグループディスカッションを行いました。講義とは違って他職種と闊達な意見交換を進めることが出来ました。

内容は患者様の基本情報から「歩行」・「起き上がり」・「座位」・「嚥下」のリハビリを行う際にはどんな予測が立てられるかをＰＴ,ＯＴ,ＳＴで話し合いました。「歩行」は主にＰＴ,「起き上がり」・「座位」はＰＴ,ＯＴ,「嚥下」はＳＴがそれぞれ担当しました。

参加した感想は,私は「嚥下」について予測できることを挙げましたが,他グループの意見や諸先輩方の話を聞き自分では気付けなかった視点もあり大変勉強になりました。また,嚥下機能からの視点だけでなく高次脳機能の評価等も嚥下には重要なポイントであり,ＳＴが行った高次脳機能評価が他職種のリハビリにも生かせることを再認識しました。患者様の障害は,どれか１つの職種がリハビリを行えば改善するわけではなく,様々な視点から他職種が連携してチームアプローチを施すことが重要であると今回の勉強会から学べました。

当院でのリハビリはチームアプローチを大切にしながら日々行っております。今後も１人のセラピストとして患者様にリハビリを提供する際には他職種との綿密な情報共有をもとにより良いアプローチを展開できるよう努めたいと思いました。

リハビリテーション科　新人言語聴覚士